90-05-13084

慶應義塾大学ビジネス・スクール

ソニーEMCS株式会社 美濃加茂テック[1](B)

司会者からの「全員起立、礼。お願いします。着席」というかけ声に合わせて、会場の全員が元気良く「お願いします」と挨拶して、生産革新ライン別実践会の成果発表会がスタートする。この発表会は1995年以来、毎週欠かすことなく、水曜日の夕方、16時過ぎ～17時に開かれており、筆者が見学した2004年1月で累積300回を超えている（付属資料1参照）。進行は、以下のごとく極めてシンプルかつスピーディである。

司会：「ただいまより、第312回ライン別実践会成果発表を開催致します。本日、司会を担当しますレンズ製造課本田です。宜しくお願いします。発表時間は4分とし、簡潔、明瞭に説明するようお願いします。3分30秒になりましたら、ベルを鳴らしてお知らせします。指し棒は左手に持って説明して下さい。それでは、Aグループより順番に説明してもらいますので、Aグループの方は準備をよろしくお願いします。Aグループ、発表をお願いします。」

Aグループ（各グループ5～6名）は、自分たちの席から数メートルの距離を駆け足で移動し、一言ずつ元気よく所属と氏名を述べた後、直ちにOHPを使って発表に入る（写真1）。発表が終わると、司会者から発表時間が秒単位で報告され、すぐに参加している部門長やフロアーから次々に質問が出される。1グループの発表が質疑を含めて約8分、それが5グループ続き、最後に総括担当部長がコメントして散会となる。全体で40～50分、終了するとリフレッシュタイム（休憩）になる。

実践会の運営について、同社プレジデントの加藤典孝氏は、次のように語っていた。

「当社の生産革新活動は、1992年3月にスタートし、当初は月に1回の成果発表会を続けていたんです。でも、4週間も経つと前回の内容を忘れてしまいます。私が10年間こ

---

1 本ケースは、標記企業の全面的な協力を得て、慶應義塾大学ビジネス・スクール教授　河野宏和が作成した。本ケースはクラス討議の資料として用いるためのもので、経営管理の良否あるいは関係者の判断の適否を示唆するものではない。（2005年5月作成）

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、ケースの複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8523 神奈川県横浜市港北区日吉本町2丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail case@kbs.keio.ac.jp）。また、ケースの注文は　http://www.kbs.keio.ac.jp/case/index.html。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、本ケースのいかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またはいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送は、これを禁ずる。

Copyright © 2005 は河野宏和が保有する。